

審判員の心得10箇条

レフェリーは、素晴らしいハンドボールを創造する
陰の演出者でなければならない。

① リーダーシップ

Leadership



レフェリーはゲームを管理・運営していく指揮者でなければならない。

「無駄な中断をさせない」→モダンハンドボール

「ボディーランゲージ」を用いて、チーム・監督に基準等を明確に伝える努力を。

そのためには、指揮者として選手にどのようなゲームをさせたいかという**ハンドボール感**あるいは**ハンドボール理念**を持たなければならない。

② 誠実さ Honesty

レフェリーは誠実でなければならない。

勝敗の行方がどうであっても最善を尽くし、ひとつひとつを丁寧に、特に初心者のプレイほど丁寧に吹笛する必要がある。



③ ルールに関する知識 Knowledge of the Rule

ルールを熟知していること、さらに**その根底にある意図・思想**を理解する。

反則された者が不利に、反則した者が有利になってはならない。



④ 冷静さ Firmness

感情的になるな！！

レフェリーは瞬間、瞬間に適切な判断をしなければならない。

そのためには、自分の信念で堂々と判定しなければならない。



⑤ 正しい判断 Good judgment

よく観察し、はっきり確認したものだけを、
判定する。

決して予測で吹笛してはならない。

アドバンテージルールがあるので、
見えた全てを判定するのではなく、
プレイが発展するかどうかを
見極めなければならない。



⑥ 身体上の適正 Good fitness

素晴らしい笛(タイミング、判定基準)は、
良い位置に素早く移動して、
適切に判定することから生まれる。

「We must run, too」とIHFレフェリーも言っている。



⑦ ユーモアのセンス

Sense of humor

ユーモアはなくて困るものではないが、
もしも、選手を罰するとき微笑を持ったなら、
あなたの温かい心が
相手に伝わるはずである。



⑧ 勇気 Courage

監督・選手が恩師や先輩であっても、
ルールはルール。
たとえ罰則であっても
勇気を持って公平に
判定しなければならない。



⑨ 協調性 Cooperation



競技場には二人のレフェリーペアがいることを、常に意識しなければならない。

また二人しかいないことも忘れてはならない。

そのため、二人で力を合わせ、協調しながらゲームを運営しなければならない。

チーム・競技役員・補助役員との連携を！

⑩ 仲間意識 Fellowship

協調性とほぼ同じであるが、
お互いを褒め称えることも忘れずに。



一戦一戦・一瞬一瞬
を

真剣に対処すべし